

平成29年 5月 8日

平成28年度総合文化研究所研究助成報告書

研究の種類	・海外共同（ ） ・共同研究（○） ・個人研究（ ）	
研究代表者 (所属・職・氏名)	文芸学部文芸学科・教授 山本聡美	
研究課題名	共立女子大学図書館所蔵絵巻の基礎的研究	
研究分担者氏名	所属・職	役割分担
山本聡美	文芸学部・文芸学科、教授	作品調査と撮影、画像及び文字データの整理、絵画史的分析
岡田ひろみ	文芸学部・文芸学科、教授	詞書の翻刻と分析、諸本との比較
菅野扶美	短大・文科、教授	詞書の翻刻と分析、文化史的分析
松野秋絵	文芸学部・文芸学科、助手	作品調査と撮影、画像及び文字データの整理
(学外) 鴈野佳世子	日本学術振興会特別研究員 (東京大学史料編纂所 PD)	描き起こし図作成、復元模写に関する専門的知識・技術の提供
(学外) 金井杜道	文化財カメラマン	高精細画像の撮影
研究期間	平成28年 4月 1日 ～ 平成29年 3月 31日	

研究実績の概要（1）

1) 本学図書館所蔵貴重書のうち、下記4件について研究代表者・分担者による調査を実施し、金井杜道（文化財カメラマン）による高精細画像の撮影を完了した。

- ①「竹取物語絵巻」（上下2巻） 上：W721.2/2/1
下：W721.2/2/2
- ②「利仁草紙」（上下2巻） 上：W721.2/10/1（11110564090）
下：W721.2/10/2（11110564104）
- ③「病草紙摸本」（全1巻） W721.2/54（111189230）
- ④「鳥獣戯画摸本」（全1巻） 721.2/60（1111192948）

2) 調書と画像データの整理を行い、情報公開の準備が進捗した。

3) 「竹取物語絵巻」に関して詞書の翻刻が完了した。

上記1)の画像に基づき、絵巻詞書の翻刻を完成させた。なお、翻刻については、2016年度文芸学部4年次在学学生であった尾崎栞氏が、卒業論文の一環として作業を分担した。これによって、図書館所蔵の貴重書を教材として活用する実践ともなった。

4) 「竹取物語絵巻」全場面について、描き起し図を作成した

上記1)の画像に基づき、描き起し図の作成を行った。描き起し図は、「日本美術史各論 B」において、日本画技法に関する教材として用いたほか、視覚障害者用の触読資料としても応用し、既に教材として有効に活用している。今後は、本学紀要やWeb上での公開などさらなる活用を検討する。

5) 研究会の開催

2016年11月26日、本研究に関する情報公開・技術的な意見交換を目的とした研究会を開催した。研究分担者の鴈野佳世子氏による絵巻模写に関する講演に加え、学外から日本画家の京都絵美氏を招へいし、顔料や截金技法に関する講演と実演を実施した。学内外から50名ほどの聴講者を集め、図書館所蔵の貴重書の重要性を周知する機会ともなった。

6) 教材としての活用

研究分担者が担当する卒論ゼミ等で、図書館所蔵絵巻の調査や翻刻に取り組んだ。その際、上記1)による画像や、4)による描き起し図を教材として用いることで、円滑な授業運営を実現することができた。

以上

研究発表(印刷中も含む)雑誌および図書

- ・山本聡美「粉河寺縁起絵巻」と経説―描かれた罪業・病・救済―(安田政彦編『生活と文化の歴史学8 自然災害と疾病』竹林舎、2017年)
- ・加須屋誠・山本聡美編『病草紙』(中央公論美術出版、2017年)
- ・山本聡美「病草紙」における説話の領分―男巫としての二形―(『日本文学の展望を拓く(仮題)』、笠間書院、2017年刊行予定)
- ・鴈野佳世子「古典絵画の描線分析とトレース図の利活用に関する試論」(『東京藝術大学社会連携センター平成27年度紀要 bulletin』vol.2、2017年)